【随　筆】

今年のタンチョウバンディング調査（その1）

住吉　尚
（釧路支部）

7月10日日曜日は参議院議員選挙投票日でした。集合場所の中茶安別の集会場は投票所になっていましたが、時々車が1台現れるだけで、我々の車が邪魔になるほどは投票者がいないようです。いつものように参加者全員で自己紹介をした後、無線機を配ろうとしたのですが、車に積んでませんでした。忘れて来たようです。釧路へ電話をして持ってきてもらうこととして、別の袋に入っていた無線機3台を車3台に持たせ、近くのターゲットを狙うことに。すると道路近くにその家族がいました。私はすかさず、運転者に「少し行って右に入る農道を行き、家族を追い越したタイミングで走るぞー！」と。車が止まり、走り出します。無線機がないので、他の車に連絡のしようがありません。でも私は大声でわめいています。「それ、他の人には聞こえませんよ！」若い人は冷静なものです。他の車に手を振って来てもらい、何とか細長い林の中での囲い込みが成功しました。次はこの中の藪を捜索します。まもなく「いた！」ヒナが藪の中を逃げるのがちらりと見えた後「捕獲！」の声が。足輪を付ける作業が終わり、朝の集合場所へ戻ると間もなく、釧路から無線機を持った車が到着し、ひと安心です。でも無線機があれば捕獲できるか、と言えばそうではありません。次のターゲットは強行策が裏目に出てヒナに逃げられてしまいました。仕方なく場所を変え、南標茶です。ターゲットは家の裏庭でのんびりしていました。この家族を築堤上に追い上げ、築堤の裏側の川岸の草藪で捕獲しようという作戦です。私たちは築堤上に追い上げる班だったのですが、家の裏庭でのんびりしているタンチョウの家族を、この家に捕獲の承諾を取りに行ったリーダーが追うと、思った以上に驚いて我々の方に走ってきます。私も必死になって走りましたが、目の前を走り過ぎます。追いすがって走りましたが、藪の向こうは沼でした。ヒナは沼を泳いで向こう岸に。かなり深そうです。ヒナは向こう岸で羽を広げ観念して伏せています。築堤班を呼んで「そのヒナ捕まえて！」と言いましたがなかなか来ません。その内、私の後方から「1羽捕獲！」との声が。私は目の前で観念しているヒナを捕まえてもらうべく声をからして叫びます。前方から「どこですか！」との声が。大声で「ここだー！」なんせ背丈を超えるヨシ原の中です。やっと前方に人の顔が。でも私の予想に反して中々近寄ってはきません。ヒナがいるヨシ原はどうやら沼に浮いている状態で人が乗ると、ぶわぶわと浮き沈みするので簡単には近付けないようです。そしてやっと人が近付いた時、ヒナがいる場所が大きく揺れるので、ヒナは逃げ出してしまいました。意を決して私はあまり深そうでない場所を選んで沼を渡りましたが、足をとられて転び、ずぶ濡れ状態です。でもこの浮島のようなヨシ原からヒナを追い出そうとさらに進みました。でも手ごたえはありません。がっくり、と思っていると、無線が「築堤の川側に親子のツルが見える！」と。いつの間にか囲っていた人たちの間を縫って親子で脱出していたようです。全員これを囲って捕獲へと、当初予定していた作戦へと作戦変更です。私が築堤上に着くと、川岸の細長い藪をヒナが走って行くのが見えました。このヒナを追いかけるメンバー、迎え撃つメンバー、これで掴んだかに見えた時、ヒナが藪に消え、見つかりません。藪の向こうは川ですから、川に飛び込んで逃げたようです。こうして簡単に2羽獲れるものと思われた場所で1羽だけでした。がっくり！私はと言えば、パンツ以外はすべて着替えをする始末でした。そしてまたもやデジカメをこわしてしまいました。

次は12日火曜日です。場所は中春別周辺でした。捜索開始間もなくヒナ連れを発見。大変広い草地でしたが、これを囲ってと動き出したのですが、囲ったはずのターゲットはどこに逃げたのか見当たりません。草地が広く、起伏があるため、どのメンバーからも死角になるところがあって、逃げられたようでした。その後あちこち探しましたが、良いターゲットが見つからず。風連湖まで足を延ばしてヒナ2羽連れを囲って捕獲しようとしましたが、ヒナは私の目の前を走りヨシ原へ。ここを守っていた他のメンバーのすぐ後ろを通って逃げていきます。右だ！後ろだ！と言っても背丈ほどもあるヨシ原の中ですから、結局逃げられてしまいました。私がこの調査に参加してからすでに15年は経っているでしょう。10年前なら追いついたのでしょうが、今ではタンチョウのヒナに追いつくなんて不可能になっているのですね。気持ちだけでは掴めない自分の老いを嫌と言うほど思い知らされた一件でした。これでこの日は捕獲数ゼロ。

14日は標茶周辺でした。農家の牛小屋の中に2羽のヒナがいます。でも牛を驚かせないようにヒナを追い出さ

ねばなりません。上手く追い出し、藪に逃げ込んだところを掴もうと農家を包囲しました。これが上手く行き、ヤブに追い込んだのですが、藪が思いのほか手ごわく、てこずっている間に逃げられてしまいました。次に見つけた別の農家ではヒナ２羽連れの家族がいました。この家族はのんびり私たちを見ているだけで逃げようとしません。この家族を横目に見ながら、農家へお断りに行きましたが、いくら探しても農家に人がいません。これほど慣れているので、よほどかわいがっているのでしょうから、許可を得てからでないと手出しができません。仕方なく諦めることに。そんなこんなでこの日も捕獲数ゼロとなってしまいました。

16日土曜日は風連湖畔がターゲットでした。カヌーを積んでいざ出発です。先日１度失敗しているヒナ２羽連れの家族が狙いです。先日逃げ込まれた湿原からは遠く離れた波打ち際にその家族はいました。逃げ込まれては困る湿原の前に待ち受け班を配置。私たちは家族からは充分離れた位置から湖畔に沿って、待ち受け班側に押していくと言う追い出し班です。私と６月にチョウチョ採りに来ていた大学時代の同級生、そして60代の奥様の３人です。これは追い出し班の方が走らなくても良いのでは、と言う判断からでした。我々が湖畔に出ると、ターゲットは湖畔と道路に挟まれた砂丘の草藪に入りました。ここを３人で押しますが、草原の幅が広く３人では足りない、ともうひとり応援を頼みます。この応援が付いたと同時ぐらいでしょうか？なんと我々が今通った藪から親鳥が飛び立ちました。「エー！」振り返って戻りながらヤブを捜索すると、メンバーのひとりが「ヒナがいる！」と叫ぶと同時にヒナが走り出しました。近くにいたのは私と大学時代の同期、もう少しなんですがヒナに振り切られそう、と思ったとき応援に来ていたメンバーが追い付き無事捕獲です。でも、もう１羽いるはずです。周辺を懸命に探しましたが見つかりません。やむなく１羽だけ足輪を付けて放鳥しました。全員引き揚げて湖畔の反対側まで来ると、なんと先ほど放したヒナと隠れていたヒナの２羽が仲良く並んでいつも隠れる湿原へと歩いて行くのが見えました。なんと隈なく探したと思っていたその場所にやはり隠れていたのですね。完全にタンチョウのヒナにしてやられました。人間の目など当てにならないということを思い知らされた一日でした。そしてこの日はこれ以上のターゲットに出会うことができずに終了となりました。

最終日は17日日曜日でした。場所は網走管内、能取湖畔です。私は15年以上前には毎年カレイ釣りに行っていたところでしたが、今回行って見てずいぶん変わったと思いました。新港から続く大きな埋め立て地はキャンプ場やパークゴルフ場になっていました。そしてここから見える位置にターゲットのヒナ１羽を連れたタンチョウの家族がいました。この湖の湖底は風連湖などとは違って砂利交じりで大変固いのが特徴です。湖畔の道路と湖岸の間の草原に追い込んで、捜索しようという作戦です。ターゲットの両側から各１名が湖に入り、ターゲットを追い越すほど沖まで行きます。すると予定通りにヒナは岸に向かって走ってきましたが、親鳥２羽も全速力で走ってきます。どうやら親鳥は２羽とも換羽中で飛べないのでしょう。この親鳥に付いて行くのでヒナも全速力です。岸の包囲網がまだ完成していない中に飛び込んできたので、少し網にほころびがあったのでしょうか？いくら探してもヒナはおろか親鳥の姿もありません。こうして今一歩と言う所まで来ながら捕獲できずに帰って来ました。

翌18日は祭日です。友達がまたもや「チョウチョ採りに付き合え」とのこと。午前中は霧多布岬に行ってみましたが、霧でチョウチョの姿は見当たらず空振り。午後

ただのクジャクチョウでした

ギンボシヒョウモンでしょうか

クロヒカゲと言います

ナガホノシロワレモコウの花穂に産卵中のゴマシジミ

サカハチチョウでしょうかアカマダラでしょうか？

は庶路川を遡りながらチョウチョ探しをしました。探すのはチョウチョが集まりそうな花です。この時期ですからホザキシモツケが沢山咲いているところが狙い目です。点々と農家がある道路の脇ですから、クジャクチョウとコヒオドシがいました。この２種はともに食草がイラクサです。イラクサは農家の堆肥山が大好きです。道路脇にもイラクサが見えます。そしてたぶん羽化したてのクジャクチョウがたくさん飛んでいる場所に出ました。この時私はなぜかクジャクチョウの前翅の目玉模様は丸いと思い込んでいました。そして前翅に丸い目玉模様をした、いつも見ている少し黄色みがかったクジャクチョウを見たような気がしたので、今目の前にいる濃い緋色で目玉模様が少し切れているクジャクチョウは変わったチョウだと思い込んでいました。でも後から図鑑を調べるとこれが普通のクジャクチョウのようです。しかもクジャクチョウはユーラシアに広く分布していて、色彩の変異はほとんどないと書いてあるではありませんか。では私が見たと思った目玉があり、少し黄色っぽいチョウチョは何だったのでしょうね。暑い夏の日の幻想だったのでしょうか？この疑問はいつの日にか解決できるのでしょうか？これでまたひとつ、解決すべき問題を見つけてしまいました。こんなことが私の生きる力になっています。毎回タンチョウの写真ばかりでは面白くないでしょうから、今回はチョウチョの写真を載せてみました。チョウチョはそれぞれ種ごとに違う植物を食べて生長します。写真に出て来るクロヒカゲはササの仲間が食草です。ヒョウモンチョウには種類が色々ありますが、ほとんどの種がスミレの仲間を食草にしています。今回少し変わっていると勘違いしたクジャクチョウやコヒオドシ、そして私にはどちらか判らないアカマダラとサカハチチョウはイラクサが食草です。食草が特に変わっているチョウはアゲハチョウ科に多く、ウスバシロチョウはケシ科のエゾエンゴサクを食べますし、ウスバキチョウは同じケシ科のコマクサが食草です。そしてヒメギフチョウはウマノスズクサ科のオクエゾサイシンを食べます。変わったところではゴマシジミと言う小さなシジミチョウがいますが、このチョウはナガホノシロワレモコウと言うバラ科の植物の花穂を食べて生長するのですが、この幼虫をアリが見つけると自分の巣へと持ち帰ります。するとこのチョウチョの幼虫はアリの幼虫を食べてさなぎになり、翌年にチョウチョになって地上に出てきます。「家の中に自分の何十倍もある大きな居候がいて、夜な夜な子供たちを食べている。代わりにこの居候は甘い蜜を出してアリに食べさせる。」怪しい薬（ヤク）をもらって代わりに子供を差し出すなんて、恐ろしい話のようですが昆虫の世界ではこんなこともありなんですね。

【北獣ホームページの「会誌からのトピックス」に住吉先生の随筆を掲載しています。カラー写真によるチョウチョの姿をお楽しみ下さい。】